

卒業式に見る袴の現代的着装の研究Ⅲ

—ファッションの視点から—

A study of wearing modern hakama at graduation ceremony Ⅲ

—From fashion viewpoint—

瀬川かおり 田中淑江 大塚絵美子 太田裕子 長谷川紗織 宮武恵子

Kaori SEGAWA, Yoshie TANAKA, Emiko OTSUKA, Yuko OTA, Saori HASEGAWA,
Keiko MIYATAKE

1. はじめに

前稿「卒業式に見る袴の現代的着装の研究Ⅰ」
「卒業式に見る袴の現代的着装の研究Ⅱ—ファッションの視点から—」¹⁾²⁾の調査では、被服学科の卒業生の袴の着装率は、2014年3月卒業97%、2015年3月卒業93%と高く、女子学生にとって卒業式には袴の着装をしたいという願望は定着している印象を受ける。学生の着装分析結果では、日頃の装いの好みと袴の着装は合致する選択がされていて、クラスター分析¹⁾に基づく志向の特異性を示すことができている。そして1年目の分析結果からトレンドであると予測した“レトロ”²⁾な印象を感じる装いは、次の年の分析では広がる傾向で、流行現象の一旦を導き出した。袴のカatalog分析結果からは、カatalogに使われているキャッチ・コピー等から、ファッション雑誌のように編集されている実態を見出した。これまでの結果から、現代の女子学生にとっての袴の着装はファッションとして捉えている実態が明らかになってきている。

ここまでの研究結果を受けて、筆者らは関連する業界の方へのヒヤリング調査を継続的に進

めている。まず、本学にて袴レンタルを行っている業者（以下：レンタル業者）2社に、女子学生が袴を選ぶ際に述べているキーワードについて数回にわたりヒヤリング調査をした。着物や袴の色の要望以外では、「かわいらしい装いがしたい」「レトロな柄が着たい」「大人っぽくきれいに見せたい」などの会話があり、それらの要望に合った商品をおすすめするという。“かわいい”“レトロ”“きれい”などの言葉は、アパレル業界、ファッション雑誌などのメディア、消費者はファッション用語として一般的によく使う言葉である。これらの言葉は、その対象が持つ趣味・センスといった好みを示す用語で、「個性」や「感性」という「テイスト」という言葉で理解されている。また同じ意味の説明用語として「ファッションイメージ」という言葉も用いられる。それらの用語には明確な規定があるわけではないとされている³⁾。アパレル業界ではブランドのコンセプトやターゲットのファッション志向を示すビジネス用語としても頻繁に使われる言葉である。

関連調査として、前2稿で導きだした「レンタル用のカatalogはファッション雑誌のように編集されている」とした結果の裏付けをとる

ために、2016年7月27日に袴着装のカタログ制作会社の専門職の方にヒヤリング調査を行った。袴のカタログは振袖のカタログと同様に、業界においては非常に重要なツールであり、編集の仕方次第で売り上げが変わるといふ。その役割は和装を身近に感じてもらうため、そしてレンタルする時の参考としてもらうためであり、最終的にはレンタル販売を誘導するツールである。そのため若い世代が日頃身近に感じられる言葉を用いるファッション雑誌に類似した編集になっている。例えば「コーディネート」を「コーデ」などとするファッション雑誌で使われる造語などの流行の言葉も使う傾向にあるという。

また、和装業界においての若い世代向けの着物に関する実態調査を目的に、2016年7月12日に和装呉服問屋にて長年業務を行ってきた専門家にヒヤリング調査を行った。若い世代にとっては、振袖と袴の着装は、着物ではなく儀式のための服装であると認識しているのではないかと述べた。その理由として、本来着物は、伝統的な格と種類があり、染めと織り、模様に至るまでの基本的な概念が存在する。それらの概念は、和装業界では基本的、むしろ常識的な考えであるとした。そして、振袖や卒業式の袴のカタログに掲載されているスタイルやそこで用いられている、また業者から要求される着物や袴は和装業界においての基本的な概念に即したものばかりではないと述べている。若い世代が積極的に儀式・式典で着物を着用するのは喜ばしいことであるが、着物の基本を理解せずに着装している実態は好ましく思われていない様子が伺えた。また、現代の若い世代をターゲットとした振袖や袴着装は、流行を意識した戦略をとらないとビジネスとして成り立たないと理解しているとの意見を伺うことができた。

一方先行研究において筆者らは卒業式の袴姿の現状報告は少ないとして、伝統的着装の変化について論じた⁴⁾。その中で、読売新聞や織研新聞に掲載された卒業式での袴着装のファッ

ションや流行現象にふれた記述を取り上げている。分析を通して現代はファッション化が定着し、発展する時期に入ったとした。また若い世代の着物に関する先行研究について、ファッションを視点に整理を行った。ファッション性の高いキモノの登場⁵⁾、若年層においては成人式や卒業式のファッションとしての和服⁶⁾、ファッションとしてのきもの(おしゃれ着)⁷⁾などのファッションと「キモノ・和服・きもの」を関連付けた記述がある。しかしながら、これらの先行研究は、伝統的な概念を基にして論じており、若い世代がファッションとして捉えている基盤にたった研究は少ないと言える。

矢嶋孝敏は、著書「きもの森」でビジネス戦略として、きもの「ファッション化」「カジュアル化」「アパレル化」とアパレル業界が使う言葉を使い述べている⁸⁾。そこで述べているファッション化は、普段着感覚のきものことを実用呉服としていた表現から、それによってかわる時代性を反映したキーワードとして使ったという。商品として提案された浴衣は、基本的な概念の上にたっていないファッションとしての楽しみを広げるものだったという。

このように和装ビジネスでは、ファッションとして捉えた着物の提案がされていることを踏まえると、研究においても若年層をターゲットとした着物の装いは、ファッションの文化社会学⁹⁾などの観点から論じる時期になっているのではないかと考えている。

2. 研究目的

本稿における研究目的は、以下の2つとした。まずは、前2稿に引き続き、平成27年度の流行現象を把握するとともに、クラスター分析も引き続き実施し日頃の装いと袴の着装との関連性や特異性を導き出す。このような毎年の時系列データの蓄積により流行のサイクルなどを導き出すことができると考えている。そのためファッションとして捉えている若い世代にむけて

の和装ビジネスに有効な資料となる期待ができる。

次に過去の分析およびヒヤリング調査から導きだした「女子学生が袴着装をファッションとして捉えている」という概念の基、袴着装について女子学生が捉える「テイスト」「ファッションイメージ」の実態を明らかにする研究に着手する。そのための予備的実験を行うことも本稿の目的の1つとした。

3. 研究方法

前2稿同様にカタログと学生着装の共通資料¹⁰⁾のデータ化および分析を行う。カタログの分析では、2016年3月に卒業をした学生を対象としたレンタル用のカタログ「卒業時装」¹⁰⁾「はかま」¹¹⁾「卒業袴」¹²⁾を使い、昨年と同様の方法で色のデータ化¹⁴⁾と判定¹⁵⁾を行う。昨年行ったアンケート調査やヒヤリング調査から、袴着装のために重視するのは色であることが導きだされたため、本稿でも色について継続して分析することとした。モデル着装姿の被写体数は、「卒業時装」は36体、「はかま」は52体、「卒業袴」は81体である。

学生着装は、2016年3月に卒業した被服学科の学生90名の卒業式での袴の着装を撮影した共通資料である。前2稿同様に日頃のファッションと照らし合わせて「ストリート系」「萌え・ギャル系」「ゴスロリ系」「モード系」「ノンポリ系」「混在系」の6分類に基づくクラスター分析を行い、クラスター毎の袴の装い、色の選択の特色について考察する。色のデータ化は、カタログと同様の手法を用いる。なお、昨年行ったアンケート調査も引き続き実施し、75名の集計を行った。

本稿の研究目的の一つである「テイスト」「ファッションイメージ」に関しては、2017年度卒業生を対象としたレンタル用のカタログ「はかま」¹³⁾と「卒業袴」¹⁴⁾を資料として予備的実験（以下：評価実験）を行った。被験者は、被

服学科の4年生13人である。両カタログからモデル着用の被写体「はかま」20体「卒業袴」20体をランダムに選んだ。カタログから各被写体を切り取り、総被写体数40体を机の上にランダムに並べた。イメージ用語として、「かわいい」「かっこいい」「きれい」「レトロ」の4つの言葉を取り上げた。被験者は各言葉に合うスタイルの被写体を上位3位まで順位付けをし、各々選んだ理由について自由に記述した。「かわいい」「かっこいい」「きれい」「レトロ」の言葉にした根拠は、前述したレンタル業者のヒヤリング調査とファッションイメージに関しての先行研究^{15) 16)}を基にしている。

4. 研究結果

(1) 2016年3月卒業生を対象としたカタログの分析

昨年と同様に、今回の分析でも学生が重視しているとされる着物と袴に限定して行った。また、見た目の印象にもっとも影響を与える色として面積が最大の色を抜粋し、「代表色」として出現数を集計した。

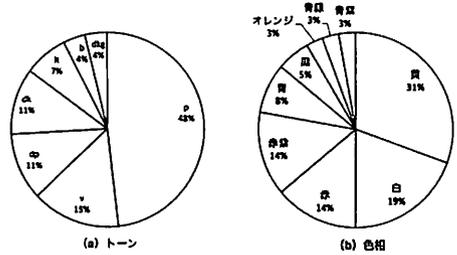
①着物の色

「代表色」について出現数が多い順に5位まで示した（表1(1)「卒業時装」(2)「はかま」(3)「卒業袴」)。また、「代表色」をトーンと色相に分け、出現数を全体数に対する割合で示した（図1-1 着物生地(1)「卒業時装」(2)「はかま」(3)「卒業袴」、図1-2 着物柄(1)「卒業時装」(2)「はかま」(3)「卒業袴」)。着物生地の色は、表1から「卒業時装」ではW(白)が1位となった。「はかま」ではp8(薄い黄)とW(白)、「卒業袴」ではBk(黒)が1位であった。全カタログでW(白)とBk(黒)、p8(薄い黄)が多数みられた。図1-1から、トーンではp(薄い)、lt(浅い)が半数を占め、高明度のトーンが多いことがわかった。色相では赤、黄などの暖色系と白が多かった。また、「卒業袴」では他の2つのカタログと比べて黒の

表 1 出現数 (着物)

(1) 「卒業時装」

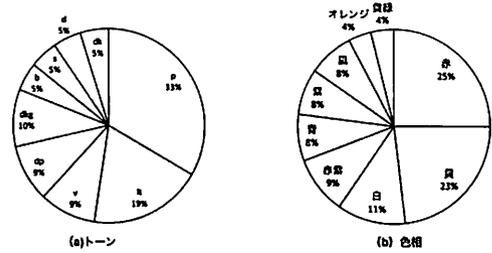
順位	着物生地		着物柄	
	色記号	出現数	色記号	出現数
1	W	10	W	8
2	Bk	7	lt24	6
3	v24, dp2, Bk	2	dp2	4
4			v2	3
5			p2, p8	2



(1) 「卒業時装」

(2) 「はかま」

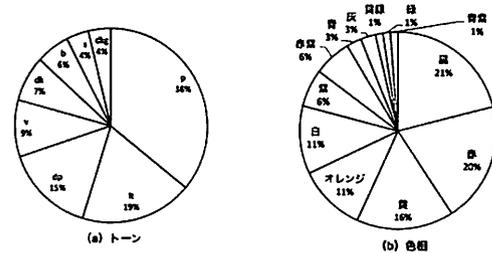
順位	着物生地		着物柄	
	色記号	出現数	色記号	出現数
1	p8	6	W	14
2	W	6	dp2	9
3	v2, dp2, lt8, p22, Bk	4	lt24	4
4			v2, v3, s4	3
5				



(2) 「はかま」

(3) 「卒業袴」

順位	着物生地		着物柄	
	色記号	出現数	色記号	出現数
1	Bk	17	W	20
2	p8	10	lt24	16
3	W	9	p2	7
4	dp2, p2	4	v2, dp2	4
5				



(3) 「卒業袴」

図 1-1 着物生地 (トーン&色相) (1) 「卒業時装」 (2) 「はかま」 (3) 「卒業袴」

割合が高かった。このように、暖色系、白と黒、高明度の色が多い結果となった。昨年の結果と比較すると、ほぼ同様の傾向を示した。白と黒の出現割合は昨年より拡大する傾向がみられた。一方、昨年と異なる点として、昨年は紫系の色が上位にみられたが、本調査ではその特徴はみられなかった。

着物柄の色は、表 1 から両カタログとも W (白) が 1 位となった。その他、lt24 (浅い赤紫) や dp2 (深い赤) などが多くみられた。図 1-2 からトーンでは lt (浅い)、v (鮮やかな)、p (薄い) などの明度、彩度の高い色の割合が高く、

色相では赤、紫、赤紫が 5 割以上を占めた。昨年の結果と比較すると、同様の傾向がみられた。

以上の結果から、両カタログで着物生地では白、黒、暖色系、高明度の色が多く、着物柄では白、赤、赤紫、高明度、高彩度の色が多いことが示された。昨年の結果と比較すると、紫系の袴生地が上位にみられなかった点以外は同様の傾向が示された。

表 2 出現数 (袴)

(1) 「卒業時装」

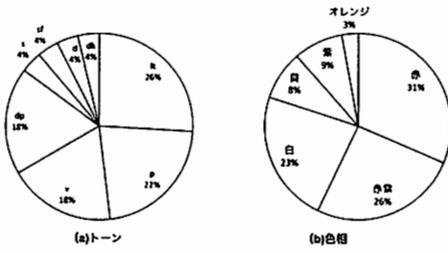
順位	袴生地		袴柄	
	色記号	出現数	色記号	出現数
1	dk2	7	v3	10
2	dk12, dkg20	5	W	7
3			lt24, p2	4
4	dk22, dk24	4	v7, dp4, lt22	3
5				

(2) 「はかま」

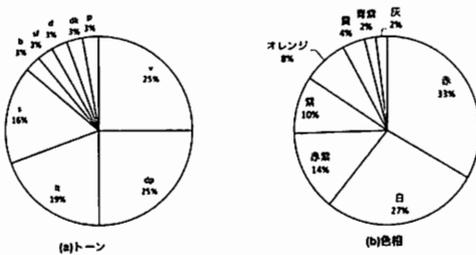
順位	袴生地		袴柄	
	色記号	出現数	色記号	出現数
1	Bk	12	W	9
2	dkg14	5	p2	7
3	d8	3	p8	6
4	sf24, dk2, dk14, dkg4, dkg18, dkg20	2	dp2	2
5			該当なし	

(3) 「卒業袴」

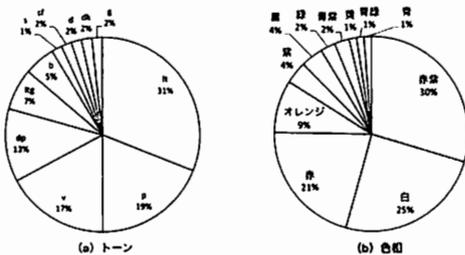
順位	袴生地		袴柄	
	色記号	出現数	色記号	出現数
1	Bk	16	p2	6
2	dk2	6	lt24	5
3	dp2	5	lt2	4
4	dkg6	5	dp2	3
5	d8, dkg20	4	W	3



(1) 「卒業時装」



(2) 「はかま」



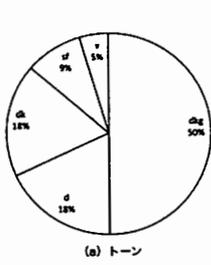
(3) 「卒業袴」

図 1-2 着物柄 (トーン&色相) (1) 「卒業時装」 (2) 「はかま」 (3) 「卒業袴」

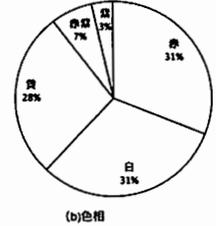
②袴の色

袴の色も着物と同様に「代表色」について出現数が多い順に 5 位まで示した (表 2 (1) 「卒業時装」(2) 「はかま」(3) 「卒業袴」)。ただし、5 位までに出現数 1 回が含まれる場合は結果から除外した。また、着物と同様に「代表色」をトーンと色相に分けて集計した (図 2-1 袴生地 (1) 「卒業時装」(2) 「はかま」(3) 「卒業袴」)。袴生地の色は、表 2 から「卒業時装」は dk2 (暗い赤) が 1 位となり、「はかま」、「卒

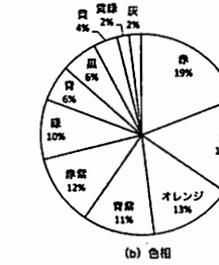
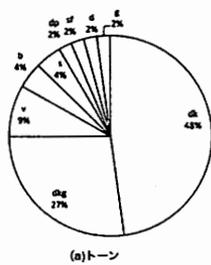
業袴」は Bk (黒) が 1 位であった。dk2 (暗い赤) は臙脂色に相当する色であり、明治や大正時代の袴を象徴する色である^{17) 18) 19)}。図 2-1 から全てのカタログで dk (暗い)、dkg (暗い灰みの)、dp (深い) の低明度トーンの割合が高く、7 割以上を占めた。また、v (鮮やかな) や sf (柔らかい) といった高明度、高彩度のトーンもわずかにみられた。色相はカタログ間で黒が多い点は共通していたが、黒以外の色相においては、「はかま」と「卒業袴」では赤がもっとも多く、「卒業時装」では青緑が多くみられた。昨年の結果と比較すると、dk2 (暗い赤)



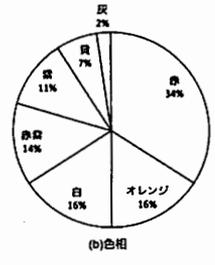
(1) 「卒業時装」



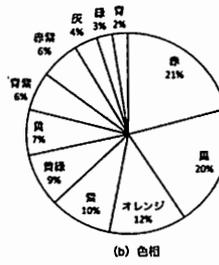
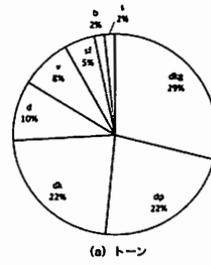
(1) 「卒業時装」



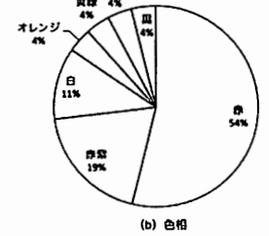
(2) 「はかま」



(2) 「はかま」



(3) 「卒業袴」



(3) 「卒業袴」

図 2-1 袴生地 (トーン&色相) (1) 「卒業時装」 (2) 「はかま」 (3) 「卒業袴」

図 2-2 袴柄 (トーン&色相) (1) 「卒業時装」 (2) 「はかま」 (3) 「卒業袴」

は昨年同様に上位にみられるなど、低明度のトーンの割合が高いという点で一致していた。しかし、黒は昨年と異なる傾向がみられ、昨年の結果では「卒業時装」では黒が最も出現数が多かったが、今回は上位 5 位までに入らなかった。袴柄の色は、表 2 から「卒業時装」は v3 (深い黄みの赤)、「はかま」は W (白)、「卒業袴」は p2 (薄い赤) が 1 位となった。図 2-2 からすべてのカタログで p (薄い)、lt (浅い)、v (鮮やかな) といった高明度、高彩度のトーンが多

く、色相は赤、白が多い点が共通していた。以上の結果から、袴生地では低明度トーンや黒が多くみられ、袴柄は高明度、高彩度のトーンが多く、赤、白が多いことが示された。昨年の結果と比較すると、「卒業時装」で黒の出現数が顕著に減少した点以外は同様の傾向が示された。

(2) 学生における袴の着装の分析

①全体の傾向

アンケートの設問「成人式に着用した着物・自作した着物を卒業式に着用する予定ですか」については、「はい」が27%、「いいえ」が73%という結果であった。昨年は、「はい」が35%、「いいえ」が65%で、大きな変化はみられない。次の設問「袴の装いを選ぶ際、重要なアイテムを下記から選び、優先順に記載してください」では、それぞれの着物が自前か自前でないかを踏まえて袴の装いに重要なアイテムが選択できる解答形式にしている。優先順位として3位まで記述し、集計については、1位記載の単純集計と1位から3位までの記載を合計した複数集計としてデータ化した。着物が自前の学生は最重要なアイテムが袴で、着物が自前でない学生は圧倒的に着物を1位に上げている結果は昨年と同様である。「袴の装いについて重要なこと」の設問では、着物の色が重要で、全体の雰囲気や着物の柄、袴の色が続く。昨年同様に、現代の袴の装いには、着物の選択が最優先で特に色については重要であると言える。昨年の分析では着装率30%となったブーツの合わせは、本稿では50%と一昨年の52%に近い割合となった。昨年は日本の伝統的な着装が好まれる傾向のため、足袋と草履の選択が増えたと推測した。しかし、袴着装においては、ブーツまたは草履は当たり前のアイテムで、個人の好みで選択しているとも言える。したがってこれまでの研究結果からはトレンド傾向とする明確な結論には達しておらず、今後の課題となった。

次に色の分析結果として、カタログと同様に着物と袴の「代表色」について出現数が多い順に5位まで示した(表3(1)着物生地と着物柄(2)袴生地と袴柄)。着物生地ではW(白)の出現数が突出していた。次いでdp2(深い赤)、p8(薄い黄)が多かった。昨年の結果と比較すると、W(白)、dp2(深い赤)が上位の点は一致した。一方、昨年の結果では赤系が上位

表3 出現数(学生)

(1) 学生 着物

順位	着物生地		着物柄	
	色記号	出現数	色記号	出現数
1	W	22	W	24
2	dp2	7	dp2	9
3	p8	6	lt24	5
4	Bk	4	v24, lt2	3
5	p16, p24	3		

(2) 学生 袴

順位	袴生地		袴柄	
	色記号	出現数	色記号	出現数
1	dk18	13	W	7
2	dk14	10	lt24	6
3	Bk	9	p2	4
4	dk2, dkg18	5	dp22, p8	3
5				

を占めていたのに対し、本調査ではp8(薄い黄)が上位となったのは今回の特徴と言えよう。カタログの結果と比較すると、W(白)、p8(薄い黄)はカタログでも上位の色であり、傾向が一致した。袴生地色では、dk18(暗い青)、dk14(暗い青緑)、の順に出現数が多く、全体の3割を占めた。この傾向は昨年の結果と同様であった。これらの低明度の青はカタログでも出現数は比較的多いが、それほど目立った扱いにはなっていない。一方、学生には非常に人気があることは今回の結果からも示された。

袴着装の全体傾向を総括すると、着物の色や柄、着物と袴の組み合わせの色などで、昨年の“レトロ”なイメージの装いは、継続している。そして本分析においての特徴は、着物の模様の大さが昨年より大きく、大胆な柄が見られたことである。そして、“レトロ”なイメージを基本にしながらも、より個性的で人とは異なるアイテムやコーディネートを求めている傾向が見られた。髪型は昨年同様に、アップにまとめる、ハーフアップにまとめるなどのすっきりし



図 3 「ストリート系」に見られる【レトロ】なイメージのコーディネート



図 5 「ストリート系」に見られる個性を重視したコーディネート



図 4 「ストリート系」に見られる大胆な柄、モダンな印象の着物



図 6 「萌え・ギャル系」に見られる工夫をし、人と異なるコーディネート

た印象のヘア・スタイルが、多くみられた。

②クラスター別

クラスター別の分析は前 2 稿同様に、日頃の装いとアンケート調査を照らし合わせて、クラスター分類をした。集計した結果は「ストリート系 39%」「萌え・ギャル系 43%」「混在系 11%」「ノンポリ系 3%」「ゴスロリ系 4%」「モード系 0%」となった。サンプル数が少ない「混在系」「モード系」「ゴスロリ系」「ノンポリ系」



図 7 花の刺繍が施された半衿

は排除し、サンプル数が多い「ストリート系」「萌え・ギャル系」について袴の装いの特異性を述べていく。その他、今回の分析でクラスターの



図8 「萌え・ギャル系」に見られる【レトロ】なコーディネート

特徴が出ている「ゴスロリ系」についても述べる。

「ストリート系」は、着物の色・柄と袴の色の組み合わせ、まとめた髪型、小物を合わせた全体的な装いは、昨年同様“レトロ”なイメージを感じさせるコーディネートが好まれていた(図3)。昨年と比較すると、よりインパクトがある大胆な柄、モダン^{注6)}な印象が特徴である(図4)。日頃からお洒落に興味があり、ファッションに関する情報やトレンドを積極的に取り入れようとするこのクラスターでは、“レトロ”をキーワードに個性豊かに装いを楽しんでいる。トレンドに敏感な学生に関しては、一般的にはあまりみられない白の袴などの他の人と異なるものを選びより個性を重視する傾向が伺える(図5)。色の分析結果では、着物生地に特徴がみられた。学生全体では代表色として白が多かったのに対し、このクラスターでは突出して多く選択された色は無く、白、赤、紫、青と様々な色使いの装いがみられた。

「萌え・ギャル系」は、日頃から華やかなスタイルを好むクラスターで、袴の着装も前2



図9 「萌え・ギャル系」に見られる日本の伝統的な柄を思わせる着物の着用例

稿同様に女性らしい華やかな装いを好んでいる。通称ギャル・ファッションとされている非常にデコラティブで可愛いアイテムを沢山用いて装う昨年までの傾向から、可愛いアイテムをベースにしながら色の合わせ、髪型や小物も含めて細部にまで工夫をしている(図6)。また(図7)のような女性らしい花のモチーフの刺繍が施された半衿や伊達衿の色なども工夫をし、華やかで上品な印象のコーディネートはこのクラ



図 10 「萌え・ギャル系」今年度新たに見られた個人的な着物の着用例



図 11 「ゴスロリ系」に見られる日頃の装いと類似するコーディネート

スターでは定番のような印象を受ける。“レトロ”なイメージの装いは、「ストリート系」と同じように大きなモチーフの着物が好まれている(図 8)。また(図 9)のような日本の伝統的な柄を思わせる着物も選ばれている。このクラスターでは昨年まで見られなかった個性的な着物を選択する傾向も見られた(図 10)。色の分析結果では、袴生地に特徴がみられた。学生全体では代表色が黒の学生が 9 名みられたがそのうち 7 名がこのクラスターの学生であった。黒の袴生地に白やピンクといった花柄があしらわれ、生地が黒が豪華さと上品さを示し、柄で女性らしい華やかさを表す様子が伺えた。



図 12-1 「はかま」より 図 12-2 「はかま」より
転載 転載

図 12「かわいい」の評価を多く得たコーディネート

前 2 稿までの分析では、クラスターの特異性に顕著な傾向が見られなかった「ゴスロリ系」では、(図 11)のように日頃の装いと類似する個性あふれるコーディネートが見られた。

(3) 「テイスト」「ファッションイメージ」分析
「かわいい」「かっこいい」「きれい」「レトロ」についての評価実験に基づき選択数の多かった被写体の例を挙げ、選んだ理由の特徴を述べる。
「かわいい」の理由は、色がピンクであること、お花の柄が小さくて優しい、合わせている袴もピンクで、全体に淡い感じがする(図 12-1)や、着物がクリーム色で袴がピンクのそれぞれの色の印象とパステル同士で合わせるとかわいい印象となり、ロマンティックな雰囲気がする、着物の柄が少女らしい(図 12-2)などがあった。「かっこいい」の理由は、全体に黒・グレーで白や黄色の花がかっこいい、黒と黒の組み合わせのトーンが暗く引き締まった印象、シックで大人っぽい印象である(図 13-1)や、落ち着いた色合いで男性的と感じた、黒地で柄が少ないため大人っぽく感じた(図 13-2)としている。「きれい」の理由は、着物も袴も紫系統でまとまっている、紫は気品があり落ち着いている、



図 13-1 「はかま」より
転載



図 13-2 「卒業袴」より
転載



図 14-1 「はかま」より
転載



図 14-2 「卒業袴」より
転載

図 13 「かっこいい」の評価を多く得たコーディネート

図 14 「きれい」の評価を多く得たコーディネート



図 15-1 「はかま」より転載



図 15-2 「卒業袴」より転載



図 15-3 「卒業袴」より転載

図 15 「レトロ」の評価を多く得たコーディネート

大人な印象をうける、着物の柄と袴の柄の流れるような感じが「きれい」と感じた(図 14-1)や、落ち着いた色と柄が大人っぽく感じた(図 14-2)などであった。「レトロ」の理由は、“はいからさん”のイメージである、柄がレトロな雰囲気である(図 15-1)や、色が派手で、柄が大きく、大正ロマン的雰囲気を感じる(図

15-2)、色合いと柄から、統一感ではなくアンバランスさがレトロな印象である(図 15-3)としている。

次に「かわいい」「かっこいい」「きれい」「レトロ」についての選択理由の記述文に対し、KJ法^{注7)}で分析を行った。ここでは、特徴的な「かわいい」「かっこいい」の結果をまとめる(表 4)

表 4 KJ 法による分析結果 (かわいい)

かわいい		
色 クリーム ピンク 白 配色	柄 花 リボン 特徴 柄	印象 女の子らしさ 幼さ やわらかさ 甘さ

表 5 KJ 法による分析結果 (かっこいい)

かっこいい		
色 赤 黄色 白 グレー 黒 色合い 色の特徴	柄 花 グラデーション 柄の少なさ 柄	印象 大人っぽさ 落ちついている 性別的 凛とした まとめり

(表 5)。「かわいい」は、色はピンク、模様は花(小花を含む)・リボン、女の子らしさ、幼さ、やわらかさ、甘さから印象を受けるとしている。一方「かっこいい」は、色は黒・赤、模様は花・グラデーション・柄の少なさ、大人っぽい、落ち着いている、凛としたイメージから印象を受けるとしている。

これらの総合的な結果から、「テイスト」「ファッションイメージ」は、着物の色が主であり、次に着物の柄・モチーフ¹⁸⁾や袴の色とともに、着物と袴を組み合わせた色の印象で判断している。総じて色の印象が重要であると言える。女子学生の日頃の装いで使う「テイスト」「ファッションイメージ」は、衣服のデザインやコーディネートを総合的に判断しており、衣服のデザインは、色・素材・形から成り立っている。特に形は、シルエット・ディテールなどに細分化され、細部にわたり変化は豊富である。一方、袴着装における着物は、大振り袖・中振袖などの袂の長さにより見た目の形の変化はある。また袴も短めに着付けるなどの丈の変化はあるが、ミニからロングまでである洋服とは異なり変化は少ない。つまり形の観点からは、着物も袴も丈

の変化はあるもののバリエーションは少ないと言える。そのため「テイスト」「ファッションイメージ」の判断基準は、色の印象である結果は納得出来る。この評価実験で色が重要であることの裏付けを取る事ができたと言える。また、この結果はアンケート結果の色が重要であるとしている点からも整合性がとれている。

5. 考察とまとめ

以上の結果から、本論の考察を三つの視点でまとめる。一つ目はカタログ及び学生の着装資料を基にした色の分析からの視点と、二つ目は今年度の袴の装いの傾向でみられたファッション分析からの視点、三つ目は袴着装の「テイスト」「ファッションイメージ」分析からの視点である。

まず色の分析からの視点では、カタログと学生調査で類似した結果と異なる結果が明らかになった。着物の色では、カタログと学生調査において、W(白)、p8(薄い黄)、Bk(黒)が多く取り入れられ、傾向は比較的一致したと言える。これらの色は近年の女子学生において着物の色として一般的に好まれる傾向があり²⁰⁾、同様の結果となった。また黒については、昨年は学生にはそれほど人気の高い色ではなかったが、本調査では人気上昇した。白や黒は普段着で好まれる色であり²¹⁾、この傾向は、袴着装に関する色の選択は日頃の装いと同一ように捉える可能性を裏付けているのではないだろうか。一方、カタログではそれほど上位ではなかったdp2(深い赤)が、学生には人気であった。dpトーンは“伝統的な”、“和風の”といったイメージを有し²²⁾、赤は女性的な印象を抱く色である²³⁾。学生全般がこの色を好む傾向があるかを明確にするには更なる調査が必要である。

袴の色ではカタログはBk(黒)、dk2(暗い赤)が多く、学生でもこの2色は上位にみられたため、傾向は一致していたと言える。しかし、学生ではdk18(暗い青)、dk14(暗い青緑)

が1, 2位となり、全体の3割を占めた。昨年と同様にこれらの暗い青系を好む傾向がみられた。この傾向が本学学生の特徴であるかは、今後の継続的な調査から明らかにしていきたい。

以上本調査から、学生が選択する着物の色と日頃の装いとが一致する傾向が強まっていることが示された。これは、学生が袴着装をファッションとして捉えている表れと言えよう。また、昨年と本調査から、本学学生が好む色が着物、袴ともに存在する可能性が示唆された。また、袴で黒が増えたことは、個人の好みや流行、あるいは日頃の装いに合わせた可能性などが考えられる。原因を明らかにするのは今後の課題である。

二つめに、ファッション分析からの視点では、クラスター分析については、昨年と同様に、日頃の装いに応じて袴の着装もそれぞれのクラスターに特徴がみられた。“レトロ”なイメージをクラスター毎に特異性を持った着装をしていることが読み取れた。継続的な分析を基にトレンドの観点からまとめると、一昨年は日頃からおしゃれに興味のある学生が取り入れていた“レトロ”なイメージを今後のトレンドとしていた。昨年は矢絣の着物、大正浪漫を感じさせる色や柄、アンティーク着物など、さまざまな“レトロ”なイメージを個性や好みに合わせて作り上げて拡大していた。そして本分析結果では、“レトロ”なイメージを基に、特に柄は大きく大胆になる傾向が見られ、色や組み合わせでさらに個性が加わり拡散する傾向がみられた。一方で、新たなトレンドとして浮上しているキーワードやヒントは見いだせなかった。次年度は、定着した“レトロ”は、さらに個性が加わりながらも一般化すると考えられる。そして本調査では見いだすことができなかった“レトロ”にかわるトレンド現象が少数ながら出現すると予測する。

三つめに、袴着装について女子学生が捉える「テイスト」「ファッションイメージ」分析から

の視点では、評価実験から、4種類の言葉に相当する写真が選ばれた共通の理由に、“色”があることがわかった。色には各色や色の組合せに対して特有のイメージや感情的作用があり、このような色彩感情に対する効果の定量化の研究は数多い²⁴⁾。これらの色の印象が袴着装のイメージに反映していると考えられる。例えば、ピンクから連想される言葉の上位に「可愛い」があり²⁵⁾、一致している。また、イメージに柄の影響もあることがわかった。形態情報(例えば、丸、三角、四角など)は色情報のように特有なイメージがあるとされている²⁶⁾。一方、模様や形態は色彩感情に影響を与えないことも報告されている^{27) 28)}。このように柄の影響については明確ではない。今回の予備調査を受け、今後さらに詳細な調査を行い、袴着装における「テイスト」「ファッションイメージ」について、袴着装で重要とされている色や柄の影響、コーディネートなどの全体着装の印象について明らかにしていきたい。

今後の研究の方向性として、女子学生が好む袴着装のトレンドを予測するため、データの蓄積を継続して行い、各年での袴着装の傾向を捉えていきたい。そのなかで引き続き、日頃の装いと袴の着装との関連性を捉え、袴着装の「ファッション化」の実態について明らかにしていきたい。

注釈

- 注1) 前2稿同様、2007年から実地している調査分析から、各クラスターについて以下のような概念として分類する。「ストリート系」は、1997頃から始まった裏原宿から発祥したカジュアル・ファッション。「萌え・ギャル系」は、渋谷109で展開されているギャル系ファッションや赤文字系ファッション雑誌に見られるようなファッション。「ゴスロリ系」は、音楽や映像の影響を受けたマニア性

の高いファッション。「モード系」は、東京モードデザイナーのテイストを取り入れた個性あふれるファッション。「ノンポリ系」は、価格で安いことを重視してアイテムを選択するファッション。「混在系」は、「ストリート系」と「萌え・ギャル系」の良いところを取っているファッション。

- 注 2) ファッションとして用いる(回顧、懐旧の)という意味で、過去を振り返って思いを馳せる感情や昔懐かしいファッションなどを示す。吉村誠一、ファッション大辞典、織研新聞社、2011年4月、p.24
- 注 3) 2015年3月15日に行われた共立女子大学の卒業式当日に被服学科学生92名の袴の着姿を撮影した。撮影箇所は1 全身正面、2 全身背面、3 全身右側面、4 上半身、5 衿元、6 足元、7 頭部、8 鞆、9 ネイルの9 カットである。
- 注 4) 色のデータ化は昨年と同様の方法で行った。色の判定は着物、袴、足袋、履物について行った。着物、袴は生地と柄についてそれぞれ占める面積の大きさの順に3色まで判定した。
- 注 5) 色の判定は昨年と同様に日本色研配色体系(日本色彩研究所によるPCCSハーモニックカラー201、以下:PCCS配色カード)全201色と“金”と“銀”を用いた。色判定者は、南向きの窓から自然光が差し込む蛍光灯照明下で椅子に座った。目の前の机の上でカタログとPCCS配色カードを照らし合わせ、カタログの色にもっとも近い配色カードを選択し、色記号を記入用紙に記入した。
- 注 6) ここでいうモダンとは、着物を好む若い層に購読されている「KIMONO 姫」に見られるような、服飾においてのちょっと洋風でしゃれた感じのものという意味で使っている。「KIMONO 姫①」ことは

じめ編」(株)祥伝社、2003年5月25日、23頁 / 「KIMONO 姫③木綿キモノ編」(株)祥伝社、2003年5月20日、54頁 / 田中千代「服飾事典」同文社1975年2月2日859頁

- 注 7) 文化人類学者の川喜田二郎が提唱した資料や情報などの整理・分類法。アイデアや情報を個別にカード化し分類して、自由に組み合わせを体系化していく方法。ファッション辞典、文化出版局、2012年2月10日、p.248
- 注 8) 題材となりうる要素あるいは制作のきっかけとなる要素のこと。田中千代「服飾事典」同文社1975年2月2日、p.859
文学や芸術作品に繰り返しあらわれる主題や、デザインなどの中核となる模様や主題。ファッション辞典、文化出版局、2012年2月10日、p.233

引用・参考文献

- 1) 田中淑江・長谷川沙織・大塚絵美子・宮武恵子、卒業式に見る現代的着姿の研究Ⅰ、共立女子大学 家政学部 紀要 第61号、2015年1月
- 2) 田中淑江・長谷川沙織・大塚絵美子・宮武恵子、卒業式に見る現代的着姿の研究Ⅱ、共立女子大学 家政学部 紀要 第62号、2016年1月
- 3) 友部直美・柳田佳子「ファッションスタイルに対するファッションイメージ用語の適合性に関する一考察」日本感性工学会論文誌13(1)、2014年137～144頁
- 4) 田中淑江・長谷川沙織・宮武恵子「現在に見る女子学生の卒業式の袴姿—伝統的着姿の変化—」服飾文化学会誌〈論文編〉Vol.16 No.1、2015年1～15頁
- 5) 樋泉淑子・長井満里子・中川早苗「女子学生の晴れ着に対する着用嗜好と評価との関連について」日本家政学会誌

- vol.41, no.4,1990年4月5日 361～368
頁
- 6) 豊田幸子・山本寿子「和服着装に関する研究(第1報) -浴衣と帯の利用について-」名古屋女子大学紀要 40,1994年15～22頁
- 7) 渡邊芳道・寺田恭子・内山道子・知野恵子「きもに関するキーワード探索研究(第4報)」東京家政大学博物館紀要 Vol.5,2000年 81～93頁
- 8) 矢嶋孝敏「きものの森」織研新聞,2015年4月20日 76頁
- 9) ジョアン・フィンケルシュタイン 成美弘至「ファッションの文化社会学」せりか書房,2007年9月25日 205～213頁
- 10) 卒業時装 丸昌 2015年
- 11) はかま 主催マイム協賛ハクビ 2015年
- 12) 卒業袴 ジョイフル恵利 2015年
- 13) はかま 主催マイム協賛ハクビ 2016年
- 14) 卒業袴 ジョイフル恵利 2016年
- 15) 古川 貴雄・三浦 爾子・渡辺 明日香・宮武 恵子・長谷川 誠「ラグジュアリーファッションブランドのトレンド分析 - SD法と因子分析による経時的变化の可視化 -」第10回日本感性工学会春季大会, 2015年3月
- 16) 3)に同じ。
- 17) 長崎盛輝.日本の伝統色彩.京都書院, 1988年1月
- 18) 難波知子.学校制服の文化史.創元社, 2012年2月
- 19) 城一夫・渡辺明日香・渡辺直樹.日本のファッション.青幻舎,2014年3月
- 20) 神谷綾子・石原久代.振袖の着装イメージに關与する色彩要因の検討.繊維製品消費科学第49号,2008年12月 59～68頁
- 21) 藤田恵子.学生の被服製作における布の色選択と雑誌のトレンドカラー.東京家政学院大学紀要第49号,2009年 17-24頁
- 22) 清野恒介・島森功.配色辞典.新紀元社, 2006年12月 18頁
- 23) 近江源太郎.色彩心理学入門.日本色研事業株式会社,2006年1月 67頁
- 24) 千々岩英彰.色彩学概論.東京大学出版会, 2004年6月 160～168頁
- 25) 大井義雄・川崎秀昭.色彩—カラーコーディネーター入門.日本色研事業株式会社, 2007年6月 45頁
- 26) 出村洋二.色彩と形態の關連性についての考察.稲村女子短期大学研究紀要 3号, 1978年 29～38頁
- 27) 内田裕子・森俊夫.多色の花柄の色彩感情とトーンの評価.日本家政学会誌 63号.2012年 627～635頁
- 28) 石原久代・神谷綾子・加藤千穂.着装イメージに關与するきものと袴の色彩要因.名古屋女子大学紀要第54号,2008年3月 1～12頁